

○設計趣旨

松山市梅津寺町は、海に面した穏やかな景観と梅津寺駅を中心とした観光資源を有し、国内外から人が訪れる可能性を秘めた地域である。一方で、観光として訪れる人々と地域の日常、さらには外部の文化や価値観とが交わる場は限られており、新たな地域の魅力や交流を生み出す拠点が求められている。そこで本計画では、この地に「地域と世界をつなぐ教育拠点」として国際系の学校を設けることを提案する。

本校は、中学校4クラス、高校8クラス（普通科4クラス、英語科、国際科、国際ビジネス科、情報ビジネス科）を設け、言語・文化・経済・情報といった異なる専門性を持つ学科が共存することで、生徒一人ひとりが自らの興味や適性に応じて学びを深めると同時に、日常的に異なる価値観と出会う教育環境を目指した。

校舎は、生徒が自然に集い、対話し、共に学び合うことができるよう、生徒中心の空間構成とした。多文化の生徒が発表や議論を行えるプレゼンルームや、学年を越えた交流を生み出す階段式テラスを動線上に重ねることで、意図せず他者と出会い、関わりが生まれる校舎としている。また、体育館には1400席以上の観覧席を設け、学校行事にとどまらず、地域の集会や国際交流イベントなどにも活用できる計画とすることで、学校を地域に開かれた文化交流の場とした。

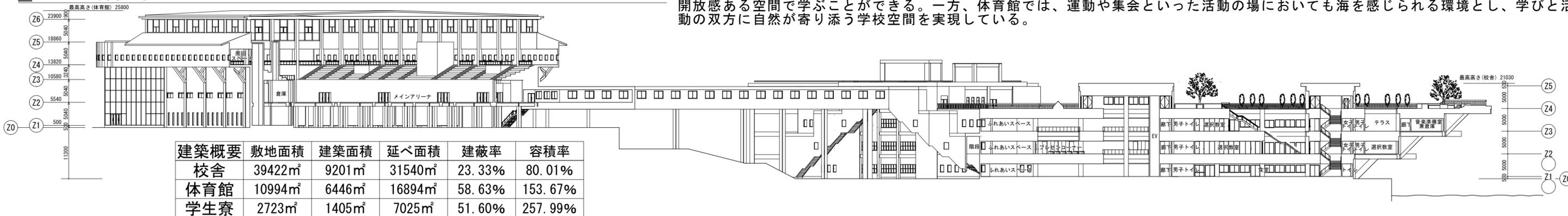
建物の形状は、すべての普通教室から海を望めるよう計画し、梅津寺の海景を日常の学びの背景として取り込んでいる。海側からの強い日差しに対しては、テラスと縦ルーバーを設け、眺望を確保しながら光環境を調整した。縦ルーバーには地元産木材を用い、環境負荷の低減とともに、地域性と温かみのある外観を表現している。さらに、図書館棟1階には地域の文化や歴史を学べる展示スペースを併設し、観光客や住民が訪れることで、学校が地域文化の発信拠点となる。

世界規模で国際化が進む現代において、言語や文化の理解に加え、国際ビジネスや情報分野に対応できる人材育成は、地域社会にとっても重要な課題である。海を望む開放的な環境は、多様な文化を受け入れる象徴としてふさわしく、ここで学ぶ生徒たちが世界へと視野を広げるきっかけになると考えている。そして、「学校名」を通して学びと交流を支え、この学校が愛媛だけでなく、日本の新たな教育の基盤となり、地域と世界をつなぐ架け橋となることを願っている。

梅津青風国際中学校・高等学校

～梅津寺から広がる多文化共創の学び舎～

A-A断面図 1 : 700

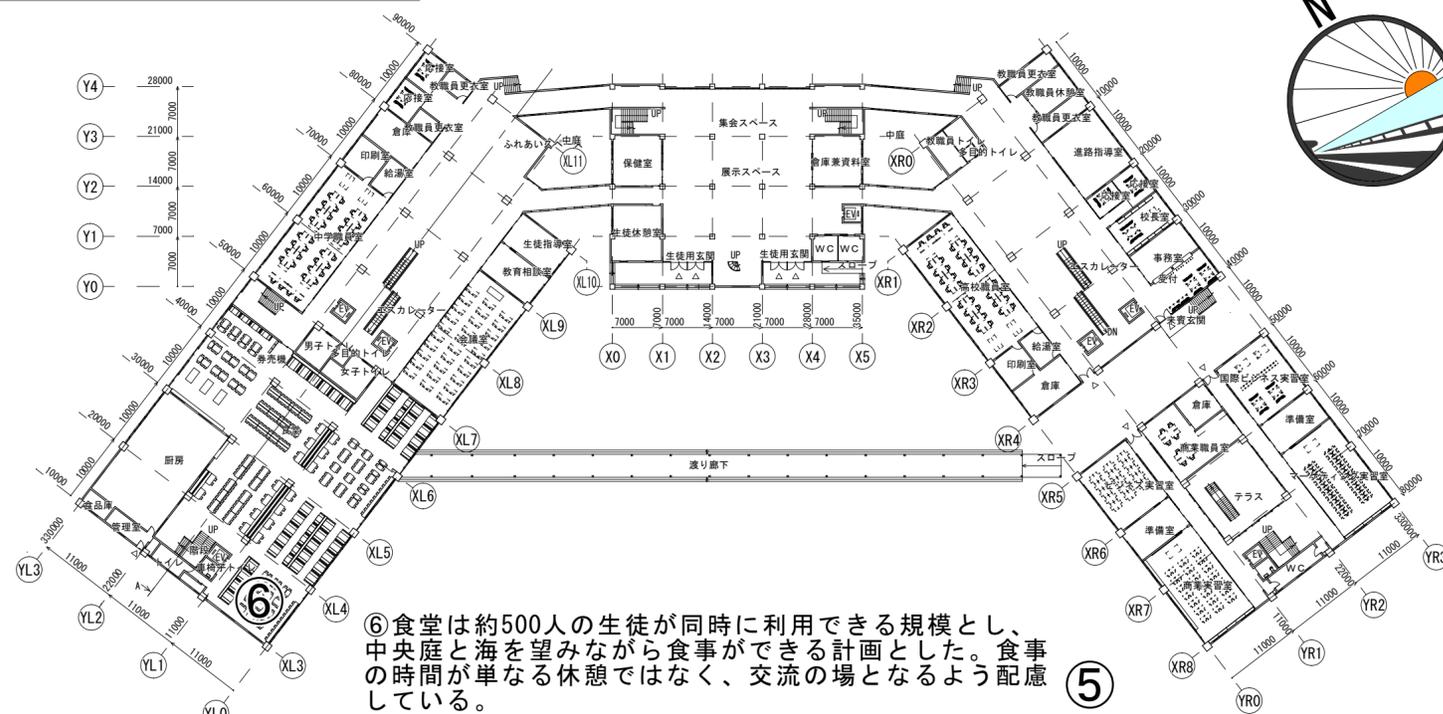


○校舎について 1階平面図と南立面図

校舎南立面図 1:700



校舎1階平面図 1:700



学生寮は、国内外から集まる生徒が安心して生活し、日常の中で交流を深められる居住環境として計画した。居室は1人部屋・2人部屋・6人部屋の選択制とし、1人部屋は高校生から選択可能とすることで、生徒の成長段階や生活スタイルに応じた住まい方を可能としている。各居室は海側と山側に配置し、海の開放的な景観、あるいは山の落ち着いた環境のいずれかを選びながら生活できる構成とした。

各フロアは左右で男女を区別し、プライバシーと安心感に配慮している。また、各居室にはキッチン、浴室、洗濯機など生活に必要な設備を常設し、生徒が自立した生活を無理なく送ることができる環境を整えた。

1階および2階には食堂を設け、海と校舎を望みながら食事ができる空間とすることで、日常の食事の時間そのものが交流の場となるよう計画している。さらに、各階には自習スペースを配置し、寮生活の中でも落ち着いて学習に取り組める環境を確保した。

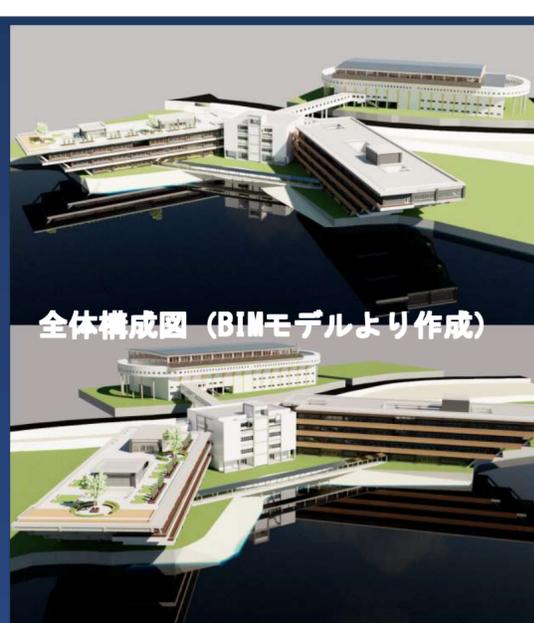
3階から5階には共有リビングを設け、映画鑑賞やゲームなどを通して生徒同士が自由に交流できる空間としている。異なる学年や文化背景を持つ生徒が自然に集い、生活の中で価値観を共有することで、国際学校にふさわしいコミュニティの形成を目指している。

学生寮南立面図 1:350

学生寮東立面図 1:350



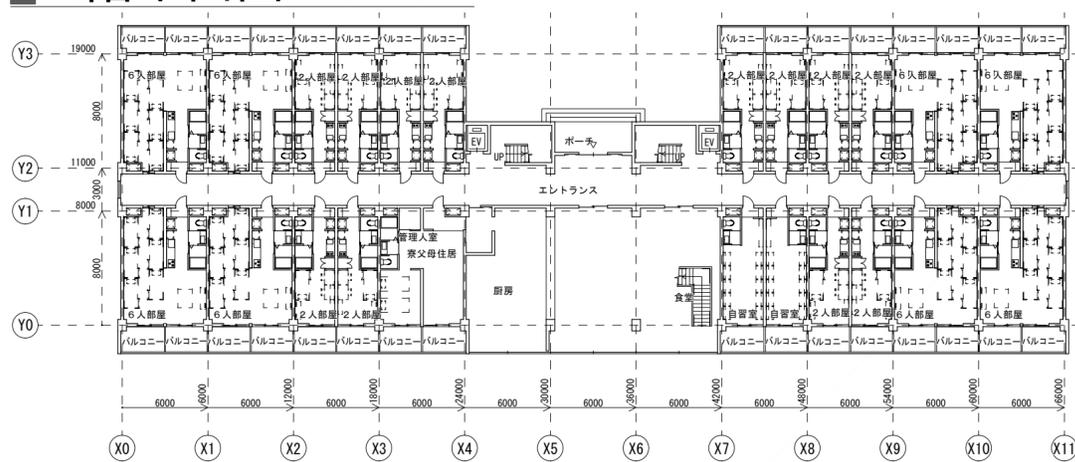
周辺地図兼配置図 1:3333



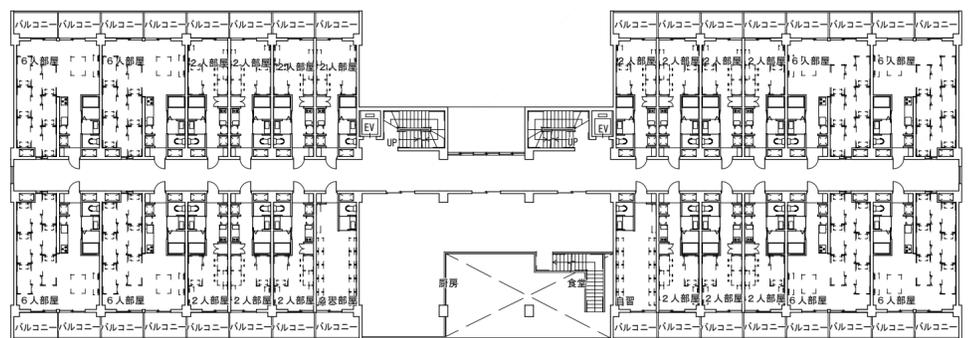
全体構成図 (BIMモデルより作成)

○学生寮

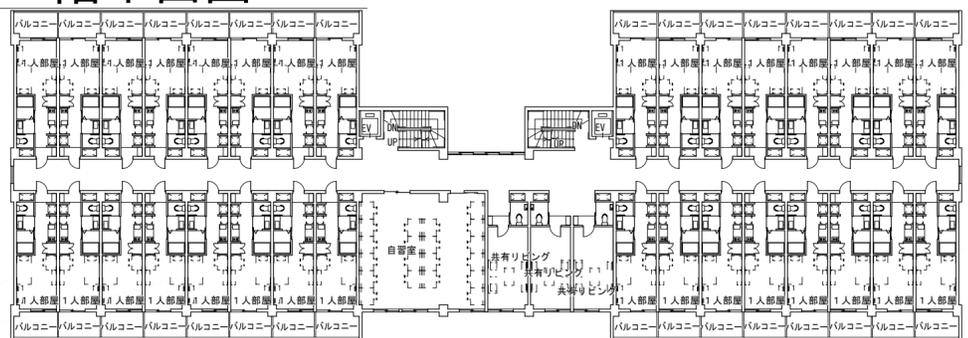
1階平面図 1:350



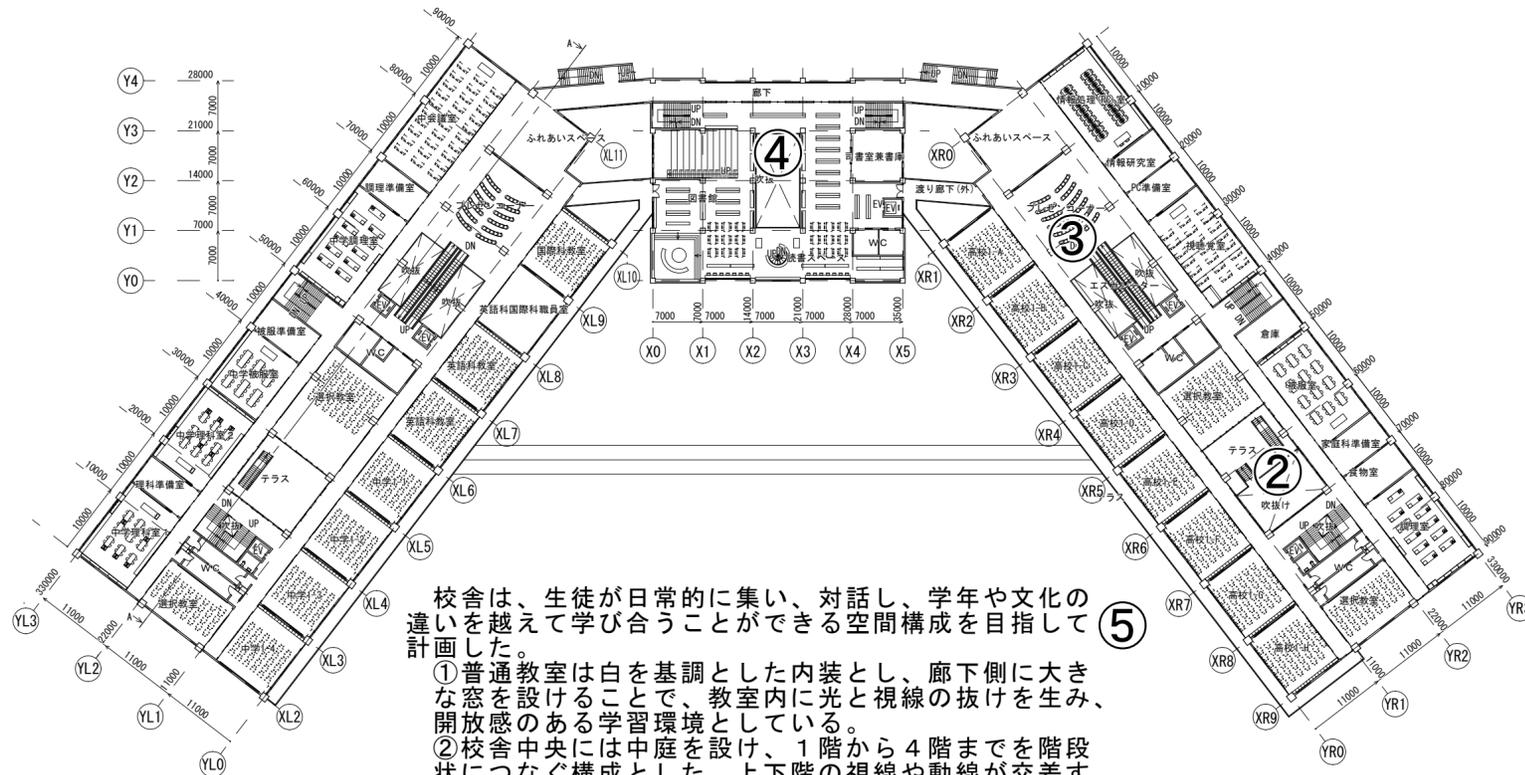
2階平面図 1:350



3~5階平面図 1:350



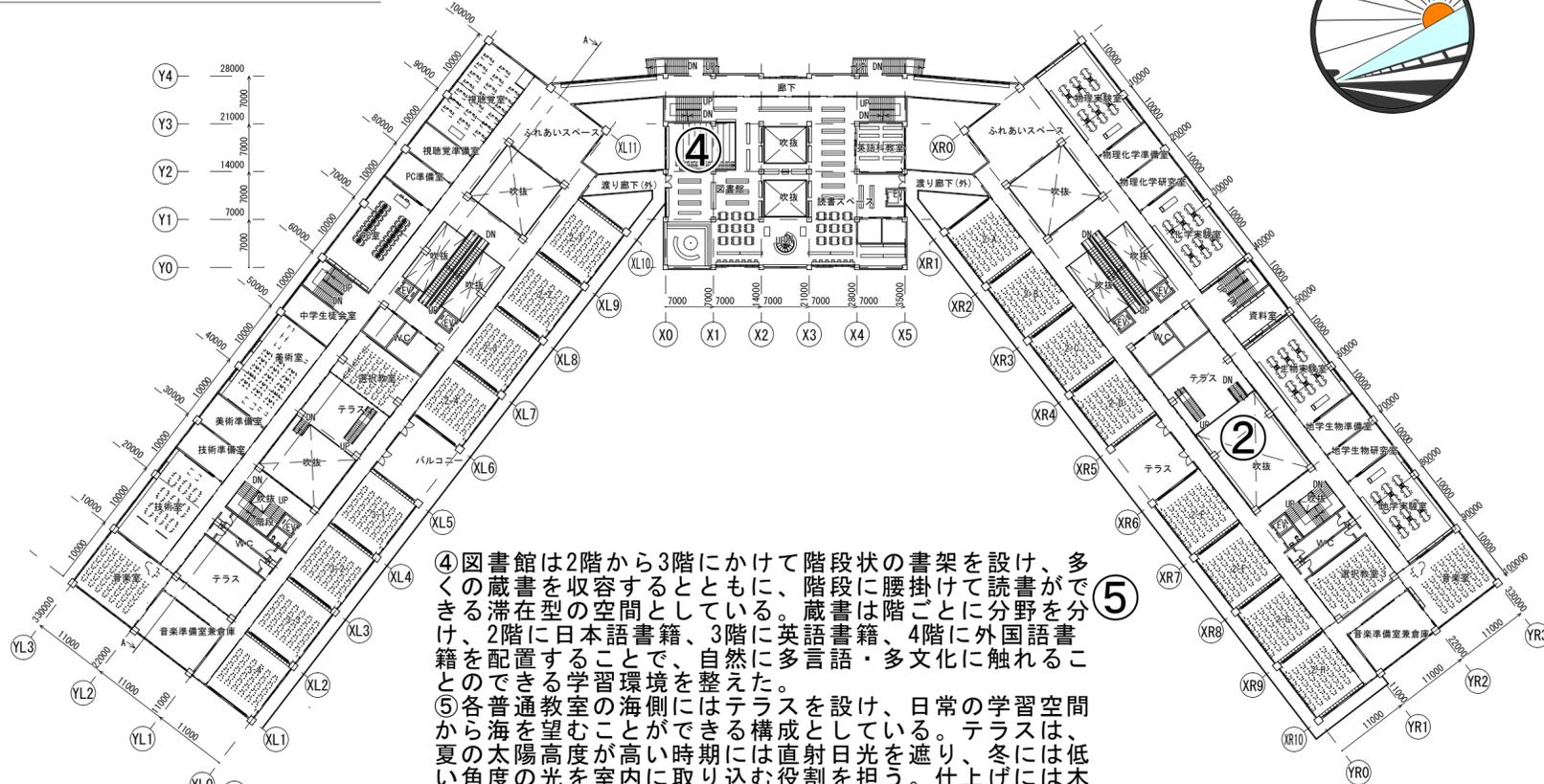
校舎2階平面図 1:700



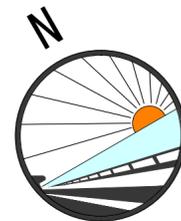
校舎は、生徒が日常的に集い、対話し、学年や文化の違いを越えて学び合うことができる空間構成を目指して計画した。

- ①普通教室は白を基調とした内装とし、廊下側に大きな窓を設けることで、教室内に光と視線の抜けを生み、開放感のある学習環境としている。
- ②校舎中央には中庭を設け、1階から4階までを階段状につなぐ構成とした。上下階の視線や動線が交差することで、学年を越えた自然な交流が生まれる場となっている。
- ③プレゼンコーナーは、生徒が学習成果を発表するための空間であり、3階は吹き抜けとすることで、上階からも発表の様子を共有できる計画とした。

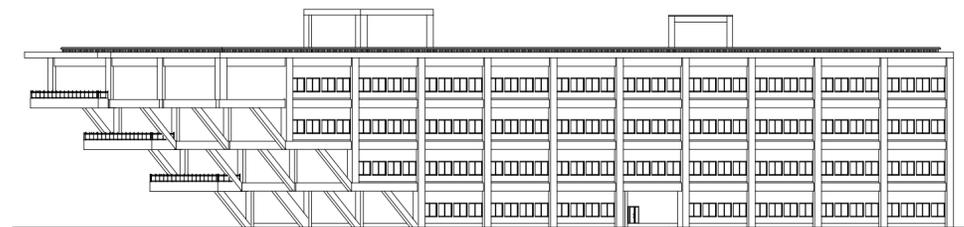
校舎3階平面図 1:700



- ④図書館は2階から3階にかけて階段状の書架を設け、多くの蔵書を受容するとともに、階段に腰掛けて読書ができる滞在型の空間としている。蔵書は階ごとに分野を分け、2階に日本語書籍、3階に英語書籍、4階に外国語書籍を配置することで、自然に多言語・多文化に触れることのできる学習環境を整えた。
- ⑤各普通教室の海側にはテラスを設け、日常の学習空間から海を望むことができる構成としている。テラスは、夏の太陽高度が高い時期には直射日光を遮り、冬には低い角度の光を室内に取り込む役割を担う。仕上げには木調素材を用い、外部と連続した温かみのある空間を演出している。



高校校舎東立面図 1:600



①教室



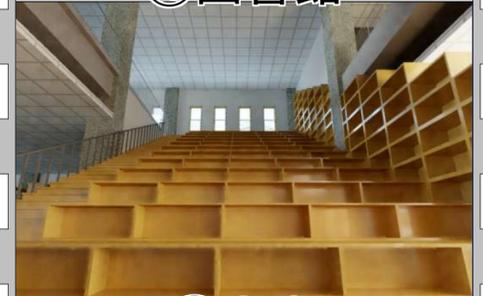
②中庭



③プレゼンコーナー



④図書館



⑤テラス



⑥食堂



⑦屋上テラス

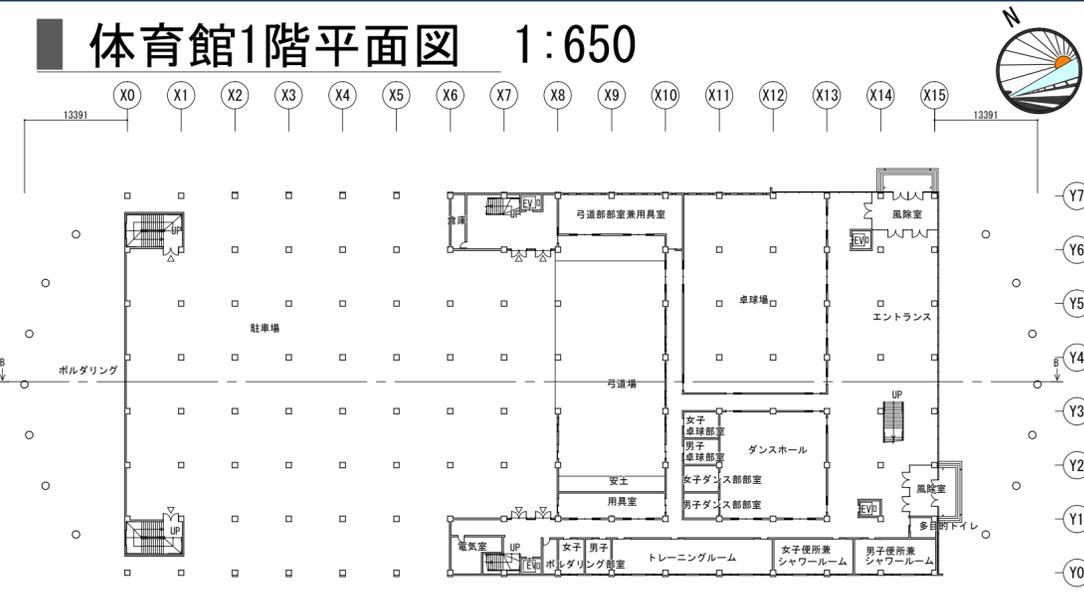


全体

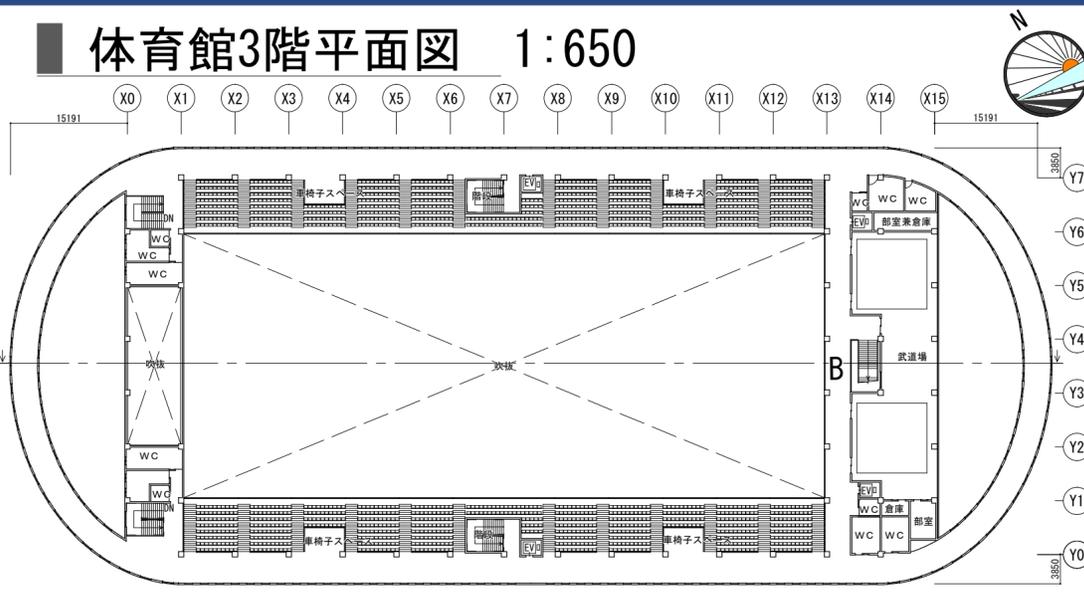


◎校舎4階と体育館、渡り廊下について

体育館1階平面図 1:650



体育館3階平面図 1:650



体育館B-B断面図 1:650



体育館の1階には弓道場、卓球場、ダンスホールなどを配置した。2階にはメインアリーナと部室を設け、メインアリーナはバスケットボールコート4面分の広さを確保した。中学生と高校生が同時に使用できる計画とすることで、学年ごとの活動を柔軟に行うことが可能である。左下Bの図は、全校生徒1320人が全校集会を行っている様子を示したものであり、生徒が整列しても余裕のある空間となっている。この広さを活かし、他校との合同研修や国際交流イベントなど、多様な活動に対応できるほか、災害時には大人数を受け入れる避難所としての機能も担う。

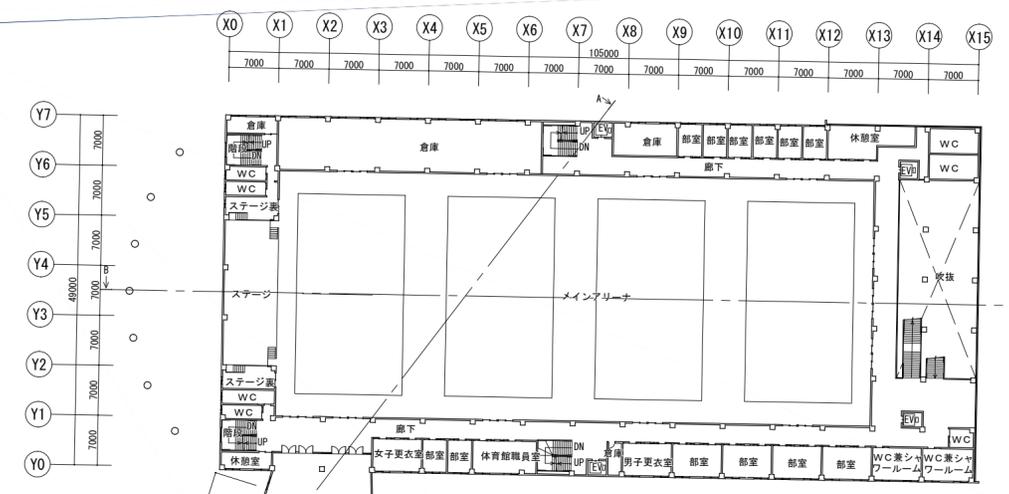
3階には1400人以上を収容できる観覧席と武道場を設け、大会や式典などの開催にも対応可能な体育館としている。

体育館外周には周回スペースを設け、建物から張り出した浮遊感のある空間を走ること、運動そのものを体験的に楽しめる構成とした。周回スペースを支える支持柱には愛媛県産木材を用い、方づえとしての役割とともに、地域性と温かみのある空間になっている。

A 体育館全体



B メインアリーナ



体育館から見た全体図



校舎4階平面図兼 体育館2階平面図 1:700 ⑤



⑦中学校舎の4階には屋上テラスを設け、自然を身近に感じられる空間とした。屋上テラスでは、食事や休憩に加え、理科などの授業を行うことも想定し、学びの場を屋外へと拡張している。